

30年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 1月4日～ 30年1月15日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
入荷動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 7.1	0.0
	マツ	△ 12.5	△ 18.8	△ 25.0
	広葉樹	△ 33.3	△ 27.8	△ 27.8
消費動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 8.3	0.0
	マツ	△ 14.3	△ 14.3	△ 14.3
	広葉樹	△ 18.8	△ 12.5	△ 12.5
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 21.4	△ 14.3
	マツ	△ 12.5	△ 18.8	△ 25.0
	広葉樹	△ 50.0	△ 38.9	△ 38.9

・スギ・ヒノキの入荷動向は1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹の在庫動向は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ	8.3	8.3	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 6.3	0.0	0.0

・チップ国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・当月はスギ・ヒノキ、マツのシステム材、森林再生事業材の入荷により増加。広葉樹も森林再生事業材の入荷により増加。在庫はスギ4.5→5.0、マツ2.0→2.5、広葉樹0.5→1.0カ月（東北）。

・日本海側では、1～2月は天候の影響（特に雪）が予想されるが、冬山対策で入荷は横ばいと見通す。消費、在庫動向に全樹種とも変動はない（中国）。

・スギ・ヒノキの仕入、消費、在庫動向は積雪の影響にて当月、翌月やや減少の見通し、翌々月は横ばい（中国）。

・1月も前月に引き続き取引業者からの広葉樹原木仕入が減少。広葉樹原木の確保が難しく消費、在庫は減少。スギ・ヒノキ、マツ類の原木は基本仕入なし（九州）。

・1～2月は降雪等の天候不順と用材優先で山から搬出されているため、入荷は少なめと予想している。3月になると年度締めとなるためのチップ用材の搬出が増えてくるものと予想する。全樹種ともにできる限り生産して欲しい旨の要請はあるが、スギ・ヒノキ、広葉樹の製紙用原木の入手が難しくなっている。このため、スギ・ヒノキ、広葉樹の製紙用在庫が少なくなっている（九州）。

(原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも前月と変わらず横ばい（東北）。

・全樹種とも価格は横ばいで変動無し（中国）。

・全樹種とも価格は横ばいで変動無し（四国）。

・単価の低い業者からの仕入が増えたため、価格はやや下落（九州）。

・スギ・ヒノキは県外の業者から高値を提示されているが、製紙用、木質バイオマス発電用ともに、これ以上の価格では購入できない（九州）。

・出荷価格の改訂・変更はない（九州）。

30年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 10.0	0.0
	マツ類	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 28.6	△ 21.4	△ 14.3
出荷動向	スギ・ヒノキ	8.3	16.7	0.0
	マツ類	△ 7.1	0.0	△ 14.3
	広葉樹	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 33.3
	広葉樹	△ 21.4	△ 21.4	△ 28.6

・スギ・ヒノキチップの生産動向は1月、2月の減少から3月は横ばいに。マツ類、広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は1月、2月の増加から3月は横ばいに。マツ類は1月の減少から2月は横ばい、3月は再び減少に。広葉樹は3カ月連続減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類は入荷量が増えた分出荷量も増加した。広葉樹は一時的な入荷量の増加のため出荷量は変わらず（東北）。
- ・各製紙会社では針葉樹チップ、広葉樹チップともに買入量を増やす傾向にある（関東）。
- ・生産、出荷、在庫動向とも横ばいで変動なし（中国）。
- ・製紙、ボード、燃料とも受入制限はないが、仕入、消費動向と同様に生産、出荷動向も当月、翌月はやや減少、翌々月は横ばい動向（四国）。

(木材チップ価格)

- ・針葉樹・広葉樹ともに昨年7月に値下げした状態であり、値上げする話はない（関東）。
- ・出荷価格は全樹種横ばいで変動なし（中国）。
- ・出荷価格は全樹種横ばいで変動なし（四国）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。